

こそだ
子育てのひろば

300回を むか 迎えました

広報ちくしのに毎月掲載している子育てのポイントコーナー「子育てのひろば」。子育て中の人に限らず、子どもたちとの接し方や遊び方などで毎月楽しみにしている人も多いのではないのでしょうか。昭和63年から始まったこのコーナーが300回を迎えました。

初めての子育ては 誰もが不安

初めて子育てをする人で、慣れている人はいません。特に乳幼児期は

「子育てのひろば」とは

「子育てのひろば」は、具体的な子育てのポイントについて説明するコーナーとして昭和63年から広報ちくしので掲載が始まり、毎月1回程度掲載を行ってきました。

当初は、市立・私立保育所で行く当時の筑紫野市保育所連盟が子どもたちの健やかな成長を願い、短期のシリーズで始まったものでした。

今回は、30年以上の掲載により本号で掲載300回を迎えた「子育てのひろば」について掲載します。

保育士が書いています

現在の「子育てのひろば」は、市立4保育所（二日市、京町、街道、下見）と筑紫野市子育て支援センター、つどいの広場「つくしのこ」の保育士が作成しています。

季節ごとの注意点や行事、生活習慣など、その時その時に応じた内容で掲載しています。

昭和63年
6月15日号に
掲載されたNo.1



以前掲載した「子育てのひろば」の概要を掲載します。



着替えを楽しく

子どもが自分でしたいと思う時期にさせないとやる気をなくしてしまいます。子どもの気持ちを受け止め、難しいところは手伝い、できたら一緒に喜びましょう。

▽1歳半頃から衣服の脱ぎ着「まず脱ぐことから」はじめましょう。

▽2、3歳頃は何でも自分でしたがります。何度も挑戦しているときに「早くしなさい」と急かしたりすると子どもはかえってやる気をなくしてしまうので、見守ることが大切です。

▽3歳を過ぎる頃にはボタンを留めたりファスナーの上げ下げもできるようになってきます。

▽4、5歳頃になると脱いだ服を入れる場所を決めておいて、片付ける習慣をつけましょう。

(No.102、平成8年12月1日号)

遊んで成長する子どもたち

日頃、「あぶないからしてはいけません」「服が汚れるからいけません」と子どもたちの遊びを止めたりしていませんか？

子どもは、遊びながらいろんな力を身につけているのです。子どもは水遊び、泥んこ遊びが大好きです。泥まみれになって遊んでいる子どもの表情は、いきいきと明るくとても活動的です。

不思議さと面白さを通して子どもたちは、遊びの世界に夢中になっていくのです。工夫して遊ぶことで創造性も培われていきます。

遊び(考え→行動→失敗→チャレンジ→成功)を繰り返しながら一段とたくましく成長していきます。

(No.50、平成4年8月1日号)



好き嫌いをなくそう！

Q うちの子どもは野菜が苦手です。無理に食べさせるのもよくないとおもうのですが、どうしたら嫌がらずに食べられるでしょうか。

A まずは、空腹が一番のごちそう！ 食事前のおかしなどに気をつけ、ごはんをおいしく食べられるようにしましょう。

そして、一度食べなかったからと諦めず、細かく刻む、柔らかく煮る、好きなものと混ぜる、ゆでるなど、調理法を工夫して何度も食べるチャンスをつくりましょう。年齢に関係なくほんの少し、一口から始めます。二口、三口と食べる量が増えていきますよ。

(No.198、平成17年2月1日号)



パパは縁の下の力持ち

最近では育児に参加する父親が増えているとはいえ、まだまだ子育ては「母親まかせ」というのが実情ではないでしょうか。

父親が思っている以上に子どもは、お父さんを求めていますし、もっとふれあいたいと感じているのに、父親の方がどう接すればよいのか戸惑ってしまうという話をよく聞きます。

そんな時は、母親がさり気なく好きな遊びや、今一番興味があることを伝えてあげてはどうでしょうか。そして一緒に遊ぶ場をつくってあげたり、ミルクを調乳してもらおう。食後の顔拭きなど簡単なところから育児に関わってもらおうといいですね。

(No.126、平成10年12月1日号)

子育てのひろば

インタビュー

子どもたちへの思い、保護者への思い。「子育てのひろば」を書いている職員に話を聞きました。

気持ちに寄り添えるものを

筑紫野市子育て支援センターとつどいの広場「つくしのこ」では、子育ての不安や悩みなどについて、保護者などからの相談を受け付けています。多くの相談があり、保護者の皆さんは、毎日子どものことで悩んだり、考えながら過ごしていることを実感しています。



保護者の話を聞く支援センター職員(右)

保護者からの相談内容はさまざまなものがあり、季節によっても変わります。その中でも多かったものは、他の保護者と同じ悩みを抱えていると思い、「子育てのひろば」に書くテーマにしています。

また、家で簡単に取組みやすい内容を選び、家庭でできることを考えなが

ら書いています。

今後は、専門的な子育てのアドバイスに限らず、タイムリーなもの、保護者の皆さんへの応援メッセージなど、子育てをする人の気持ちに寄り添えるものも掲載していきたいと考えています。

(子育て支援センター、「つくしのこ」職員の話を要約)

これからも保護者への応援を

「子育てのひろば」が昭和63年に掲載が始まった当初に関わっていました。掲載するテーマを決めるために各保育所の担当者が集まって内容を検討していたことを覚えていきます。

当時は、少子化もあり、子どもへの意識が世間的にも高まっていました。筑紫野市では保育や子育てに関心をもってもらおうと、子育てのアドバイスをお知らせする一方で、子育て支援センターの前身の保育センターの設置や、地域での子育て支援として「保育交流」を設けたり、公立・私立保育所合同で「あそびのひろば」を開催したり、さまざまな取り組みを行ってきました。

子育てを巡る環境は時代とともに変化しますが、子どもたちと向き合う保護者によりよい子育てをしたいと思う気持ち、そしてそれを応援したいという周囲の気持ちは変わりません。これからも保護者への応援となるような、「子育てのひろば」を掲載していきたいですね。

(公立保育所職員)



子育て支援センター、つどいの広場「つくしのこ」

筑紫野市子育て支援センター



開所時間 月～金曜日の8時30分～17時
 場 市内石崎1-1-2(市役所本庁舎西側)
 ☎FAX(922)7287

子育て支援センターで行っている事業です。全て参加無料で予約が必要です。

●まなびの広場

0歳児を対象に月齢に合わせた遊びや育児を学びます。

●子育てサロン

子育て中の親子が気軽に集まり、子育ての相談や情報交換などができます。

●子育て講習会

子育てに役立つ情報や育児が楽しくなることをテーマに講師を招いて講習会を行います。

つどいの広場「つくしのこ」



開所時間 月～金曜日の8時30分～17時
 場 市内二日市中央5-10-1
 クラシオン二日市1階
 ☎FAX(408)7776

「つくしのこ」は、おもちゃで自由に遊んだり、親子の交流、子育て相談、情報交換などができる広場です。利用には予約が必要です。

●赤ちゃんのつどい

テーマに沿って、子育ての情報交換を参加者同士で行います。

●個別育児相談時間

「子育てについて話を聞いてほしい」「遊ばせ方が分からない」など、子育てについての不安・悩み・心配ごとなど保育士とじっくり相談できます。

「もこもこ」「つくしのこだより」を発行しています

子育てサロンなどの案内や、子育てのワンポイントアドバイスなどを掲載した、子育て支援センター情報紙「もこもこ」、つどいの広場「つくしのこ」情報紙「つくしのこだより」を定期的に発行しています。市の施設に設置するほか、ホームページにも掲載しています。ぜひご覧ください。



子育て相談を受け付けています

子育ての不安や悩みはありませんか

気になること、困っていることがあれば、一人で悩まないで相談してください。

電話、来所相談に応じます。赤ちゃんの身長、体重を測ることもできます。(月～金曜日、8時30分～17時)

今月号の「子育てのひろば」No.300は28ページに掲載しています